

農業委員会、農業協同組合、土地改良区等の女性役員との
意見交換会（オンライン）概要

日 時：令和4年3月10日（木） 13：35～15：10

参加者：（全員女性）

にいがた女性農業委員の会	会長
富山県農業委員会女性協議会	会長
J A新潟県女性組織協議会	会長
あおば農業協同組合	理事
石川県土地改良事業団体連合会	理事
福井県土地改良事業団体連合会	理事

概 要：

女性の農村社会への参画について

○女性の中には、自分の能力に気づいていない人もいる。また、夫婦間で妻の能力を低く思っている夫も多い。そのような中で、自分は農業委員として、男でも女でも同じように自然体で活躍できるという姿を後輩に見せてきたところであり、それを見た後輩も農業委員になっている。ただし、社会に参画するには、まずは自分が農業経営に参画して、自分の仕事をしっかり行うことが重要である。でなければ農業委員、役員としてしっかりした意見も言えない。

○農協は女性のことを、思って行動してくれているが、農業は基本的に男社会である。そうした中で、今後女性が社会参画していくためには、女性がこうだと思った事を言える場が必要である。

○私が所属する農協では、各地区から1名は女性理事を出すことになっているので、女性理事の割合は他の農協に比べて高い。理事は、女性部の代表から女性経営者に変わってきている。女性には消費者の視点があるので、活躍の場があると思う。

○以前、農協の理事をしていたとき、女性の意見が通らず、軽くあしらわれていると感じる場合があった。また、県で設定する作業料金が男性と女性で異なり、女性は男性より2千円安かった。それは、男性は機械を使うからという理由からだったが、最近では女性もトラクターでもなんでも機械を使えるのにおかしいのでは、と問題提起したところ、その後、男女差はなくなった。

理事になるのを承諾したのは、農業が好きで、知りたい、学びたい等の気持ちがあったから。今後、員外理事制度を活用して女性の理事を増やしていきたい。令和4年度にはみどりネット女性の会を立ち上げたいと考えている。

女性登用に向けた課題について

○外に出る機会が少なかったことから、学びの機会と、その学びを活かす場が欲しい。それによって自信がつく。また、女性が自ら、都合よく「女だから」と言って、役員を断ったりするのをやめないといけない。

○女性の農業委員を増やしていこうとする中で、男社会で男性が「この席を女性にしよう」と決める。そうではなく、もっと女性に相談があってもいいのではないかと思う。また、女性も声がかかったら後ろに下がらず、ささいなことでも感じたことを1つ2つ発言する心構えが必要。

○男性の考え方（男性社会）を変えてもらうしかない。女性も自ら外に出ていき、お願いされたら断らずに何でも参加する、役を受けていくことが大事。

○共済の窓口担当や、イベントにおけるふるまいなどは男性でもできる仕事なのに最初から女性の仕事として割り振られる。性別ではなく、個々の能力によって割り振るように変えて行ければよいのではないか。また、ずっと働き続けていくためのキャリア強化の制度があればいいと思う。

家族の協力（家事の役割分担）について

○家事の役割分担は常日頃の積み上げが大事。親の代から自分の食器は自分で洗うことになっているし、夕飯の支度は時間のある人が作ることになっている。

○家事は自分が全てやるが、農業の方は、会合等で出かける場合にできない分は夫が補ってくれる。家族の理解があるから外へ出て行ける。

○炊事・洗濯・掃除等の家事は全て自分が行っている。農業は自分で段取りを決められるので、時間の配分が出来る。負担を感じる人は家族の協力が必要。考え方次第。

○家事はほぼ自分が行っているが、農作業に出る際は一緒に家を出るため、夫の協力を得ている。

その他

○コロナ禍により WEB 会議が増えている。女性は特に対面による打合せにより強さを増していく。今後、本日と同様な意見交換を行う際は、WEB ではなく対面で実施してほしい。